

多賀神社神幸行事【たがじんじゃじんこうぎょうじ】



当民俗芸能は諸事情により映像による取材を行っておりません。

開催場所

直方市大字直方
多賀神社

開催日

10月

(3年に1度開催、次回は平成16年予定)

指定

福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

多賀神社は「お多賀さん」の愛称で広く親しまれ、伊邪那岐大神と伊邪那美大神を祭神とする長寿・厄除の神である。御神幸は、江戸時代に多賀神社の宮司・青山敏文が京都の御蔭祭と葵祭りにならった古式ゆかしいものである。行粧は、神官は衣冠・正装。装束供奉者は平安王朝の装束に垂直・袴など江戸時代の武家の服装を加え、これに礼装の一般の人達が続く、延々500mに及ぶ絵巻のような行列である。また、日の出の海や花山などの飾り山を曳く人や、劔・矛・盾・弓など御神宝を持つ人が、素襖・狩衣などを着用して、平安風にととのえられる。特に神霊を神馬に奉載し錦蓋をかけて渡御する形式や、宮司が揚輿にのる例は全国でも珍しい。

【芸能の特徴】

多賀神社の御神幸の起源は諸説あり、仁和年間(885~888)に始まったとする説や、南北朝の吉野時代に懐良親王が多賀神社の前身である妙見大明神を再建した際、神田や神馬を寄進して神迎の神事をしたのが始まりとする説などがある。現在の御神幸の形式になったのは、江戸時代黒田直方藩主長清の代に、多賀神社の宮司青山敏文が、京都の上・下加茂御規神社の「御蔭祭(みかげまつり)」・「葵祭(あおいまつり)」の行粧を踏襲して再興してからとされる。

第二次大戦中は中断されていたが、戦後間もなく復活した。当時は隔年で開催されており、2日にわたり行なわれる、夜の御神幸であった。

【使用する祭具・道具など】

雅楽の楽器は、一鼓1、箏(ひちりき)2、笙(しょう)2、竜笛2、荷太鼓1、荷鉦鼓1。獅子楽の楽器は、笛1、太鼓1、銅拍子20が、2組。

・アクセス

JR直方駅 徒歩15分

・周辺の観光

福智山ろく花公園、直方リバーサイドパーク、竜王峡、直方石炭記念館
直方工芸の市(4月)、直方花火と炎まつり(7月)、ひまわりフェスタ(9月)、直方市民文化祭(11月)

・近くの特産品

直方ダルマ、いちご、ラン、成金饅頭

